

G 8 環境大臣会合等におけるカーボン・オフセットについて

平成20年7月23日（水）
 環境省地球環境局地球温暖化対策課
 市場メカニズム室
 直通：03-5521-8354
 代表：03-3581-3351
 室長：高橋 康夫（内6737）
 補佐：近藤 亮太（内6769）
 担当：泉 勇氣（内6788）
 地球環境局総務課
 直通：03-5521-8242
 課長：木村 祐二（内6710）
 補佐：小林 香（内6278）



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

平成20年5月24日～26日に兵庫県神戸市で開催されたG 8 環境大臣会合及び平成20年4月5日～6日に千葉市幕張で開催されたその準備会合において、カーボン・オフセットの取組を実施しました。

具体的には、両会合の開催に伴う排出量の算定結果を踏まえ、今回のオフセットの対象となる、低公害車の利用や自然エネルギーの活用（グリーン電力証書の購入）、省エネルギー対策等により削減努力を行った後に実際に会議場の電力使用等に伴って排出された二酸化炭素排出量は、466.4 t-CO₂としました。

この排出量については、今後、韓国やインドの風力発電事業のCDMクレジットの購入によりオフセットする予定です。

あわせて、地元でライトダウンキャンペーンによる温室効果ガス排出削減の取組も実施しました。

1. カーボン・オフセットとは

カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO₂等の温室効果ガスの排出について、[1]まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、[2]どうしても排出される温室効果ガスについてその排出量を見積り、[3]排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。

このカーボン・オフセットは、①商品の製造・使用やサービスの利用、②会議・イベントの開催、③市民、企業、自治体の自らの活動といったさまざまな場面での温室効果ガスの排出について実施され始めています。

2. G8 環境大臣会合におけるカーボン・オフセットの概要

環境省では、日本で開催されるさまざまな会議についてトータルで環境への配慮を確実に実施し向上させていくため、2007 年秋から検討を開始し、2008 年 1 月に「会議等の環境配慮のススメ」を策定しました。また、市民、企業、自治体等の主体的な排出削減の取組を促進するため、我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について 2007 年秋から検討を開始し、2008 年 2 月に「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について(指針)」を策定しました。

こうした中で、環境省は、G8 環境大臣会合を開催するに当たり、会合そのものを可能な限り環境に配慮したものとするため、会合開催に伴う温室効果ガスの低減に努めるとともに、それでもなお排出される温室効果ガスについては、それに相当する削減対策等により埋め合わせる「カーボン・オフセット」を実施することとしました。

G8 環境大臣会合及びその準備会合においては、上記の「会議等の環境配慮のススメ」「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について(指針)」を基に、会議場の管理者等の協力を得ながら、さまざまな排出削減の取組を実施するとともに、このような排出削減努力を行ってもなお排出される温室効果ガスについて、他の場所における排出削減プロジェクトの実施により(具体的には、京都クレジットの購入により)埋め合わせを行うこととしました。

3. G8 環境大臣会合及びその準備会合における排出削減の取組について

G8 環境大臣会合においては、①低公害車及びバイオ燃料の利用、②自然エネルギーの活用(グリーン電力証書の購入※)、③省エネルギー対策、④廃棄物の削減、⑤環境配慮型製品の利用、⑥会合参加者への呼びかけ等により、可能な限り会合開催に伴う二酸化炭素排出量の削減に取り組みました。その具体的な取組内容は、別添 1 をご参照下さい。また、準備会合においてもこれに準じた取組を行いました。

※グリーン電力証書については、エネサーブ(株)から、京都府南丹市のバイオマス(家畜糞尿バイオガス)発電設備からの電力を 133,000kwh 購入予定。これは、G8 環境大臣会合及びその準備会合の会場・宿泊施設の全購入電力量(自家発電分を除く)に相当。

4. G8 環境大臣会合及びその準備会合における温室効果ガス排出量について

G8 環境大臣会合及びその準備会合における温室効果ガス排出量を算定しました(この排出量算定については、ビューローベリタスジャパン株式会社に第三者検証を実施していただいています)。その結果を踏まえ、今回のオフセットの対象となる、排出削減の取組を行った後の会合開催に伴う排出量は、466.4 t-CO₂としています。その内訳は下記のとおりです。

	G8環境大臣会合	準備会合	総計	割合
①航空機利用	252.4 (うち国内線 5.8)	91.9	344.3	73.8
②ホテル・会場利用 (※)	109.5	6.2	115.7	24.8
③国内車両鉄道移動	6.1	0.3	6.4	1.4
総計	368	98.4	466.4	100

(単位:t-CO2)

(単位:%)

※ホテル・会場利用に伴う排出量は、3の自然エネルギーの活用（グリーン電力証書の購入）等の排出削減の取組を行った後の排出量です。

5. 今後の埋め合わせの方針について

(1) CDM クレジットによる埋め合わせ

G8 環境大臣会合及びその準備会合の開催に伴う 466.4 トンの排出量を埋め合わせるため、下記のクリーン開発メカニズム（CDM）プロジェクトから生成される京都クレジット（CER）を購入し、無効化（償却又は取消）することによって埋め合わせることとします。

購入した京都クレジットは、日本国政府の国別登録簿上の償却口座へ移転し、我が国の京都議定書に基づく削減約束の達成に貢献します。ただし、国際線利用に伴う排出量を埋め合わせる分の京都クレジットについては、現時点では京都議定書に基づき日本の排出量を算定する際に日本の排出量に含まないことから、取消口座に移転することとします。

プロジェクト名	プロジェクト概要	プロジェクト実施国	購入量	契約締結予定先
Ref.NO.:0222 プロジェクト名:The GangwonWind Park Project(韓国ガンウォン風力発電)	風力発電事業を実施し、電力網への売電によってその化石燃料使用量を低減することにより、温室効果ガスの排出を削減する。	韓国	300t-CO2	丸紅
Ref.NO.:0992 プロジェクト名:14.85 MW Grid connected Wind farm project, at various locations in Tamil Nadu, by M/s Goyal MG Gases Private Limited(タミル・ナドゥ州におけるゴヤル社 14.85MW 風力発電プロジェクト)	風力発電事業を実施し、電力網への売電によってその化石燃料使用量を低減することにより、温室効果ガスの排出を削減する。	インド	200t-CO2	三菱 UFJ 信託銀行

(2)開催地域の取組による埋め合わせ

上記に加え、会議開催地である神戸市の施設及び企業の方々の御協力をいただいてライトダウンキャンペーン活動を実施していただくといった温室効果ガス排出削減の取組も実施いたしました。これらの取組みによる削減量も参考までに今後算定することとしています。

(参考：神戸市 HP) <http://kouhou.city.kobe.jp/information/2008/07/20080707ev01.pdf>

G 8 環境大臣会合における環境配慮について

平成 20 年 5 月
環 境 省

5 月 24 日～26 日に兵庫県神戸市において G 8 環境大臣会合を開催するに当たり、会合そのものを可能な限り環境に配慮したものとするため、地元自治体（兵庫県、神戸市）及び会場（神戸ポートピアホテル等）、関係企業等の協力を得つつ以下の取組を進めます。

1. 低公害車及びバイオ燃料の利用

- ・ 各国の大臣をはじめとする会合参加者の空港等の送迎には、自動車メーカー等の協力を得つつ最新型の低公害車（燃料電池自動車、水素自動車、ハイブリット自動車、その他最新燃費、最新排ガス規制適合車）を導入します。
- ・ また、燃料として、環境省委託により大阪府が実施している「エコ燃料実用化地域システム実証事業」において利用が推進されているバイオエタノール 3% 混合ガソリン（E3）を利用することにより、CO₂ 低減を進めます。
- ・ この他、会合周辺のサイドイベントにおいて地元自治体が提供するシャトルバス（天然ガス車）には、神戸市が推進する「こうべバイオガス」を燃料として利用します。

< 参 考 >

- ① 燃料電池自動車、水素自動車は、水素をエネルギー源とし走行過程において CO₂ を一切排出しない次世代自動車で、通常の車両を利用する場合と比べ、関西国際空港・神戸間（片道。約 73km）で、1 台につき約 15kg の CO₂ が削減できます。
- ② E3 は、食糧と競合しない建設廃木材を原料とするバイオエタノールを 3% 混合したガソリンであり、バイオエタノール混合分の CO₂ 排出を削減できます。
- ③ 「こうべバイオガス」は、下水処理の過程で発生する消化ガスのメタン濃度を 98% まで上げ、都市ガスとほぼ同等の品質で天然ガス自動車燃料として活用できるバイオ燃料です。

2. 自然エネルギーの活用

- ・ カーボン・オフセットの取組の一環として、会合に伴って使用する電気の量に相当するグリーン電力証書を購入することにより、自然エネルギーの活用を図ります。（下記 6. 参照）
- ・ 北海道洞爺湖サミットでも活用が予定されている雪氷冷房装置^{（注）}を使用します。
（注）北海道内の高校生が製作した簡易雪氷冷房装置をメディアセンターに設置し、実際に使用する予定です。

3. 省エネルギー対策

- ・ 会場及び会合参加者の宿泊先である神戸ポートピアホテルで利用される熱（給湯等）については、コージェネレーション（熱電併給）システムが採用されており、大幅な省エネルギー・CO₂ の削減が実現されています。
- ・ 参加者にノーネクタイ・ノージャケット等服装による調節を求めながら、会場及び客室等における過度な空調を抑制します。照明についてもこまめな消灯に努めます。
- ・ 参加者に提供する食事にはできるだけ地元食材を使用する「地産地消」の取組により、食材輸送に係るエネルギーの削減に努めます。

4. 廃棄物の削減

- ・ 会合全体を通じてゴミの分別、3Rの推進により廃棄物の削減に努めます。
- ・ 会合参加者及びスタッフの食事に関しては、使い捨ての皿やカップは使用しないこととし、箸やおしぼりについても使い捨てでないものを使用します。
- ・ 会議中の飲料水の提供に当たっては、ペットボトルでなく、水差しを利用します。

5. 環境配慮型製品の利用

- ・ 会合参加者（報道関係者を含む）に提供されるコーヒーは、生物多様性保全と生産者である小規模農家の生活向上に貢献するコーヒー豆^(注)を利用します。
- ・ また、会合参加者が使用する筆記具として、3月に開催されたグレンイーグルズ対話においても使用された千葉県産の「バイオマスプラスチックボールペン」（間伐材等を原料とした木質プラスチック製品）を配布します。
- ・ その他、会合で使用する備品・消耗品については、グリーン購入法適合製品など、可能な限り環境に配慮した製品を使用します。

（注）コーヒーは、豊かな森林生態系を利用する日陰栽培農法が可能な作物であり、適格な土地利用や環境に配慮した農法の導入により、生物多様性保全に貢献しながら、生産者の収入を生み出すことができる。今回提供されるのは、中米最大の雲霧林「ラ・アミスタッド保護区」（パナマ）周辺で国際環境 NGO・コンサベーション・インターナショナルが実施する、生物多様性保全と生産農家の生活向上を目指すプロジェクトに参加している小規模農園のコーヒーであり、神戸に本社のあるUCC上島珈琲株式会社がプロジェクトの趣旨に賛同し輸入したものである。

6. 会合参加者への呼びかけ等

- ・ 各国の代表、報道関係者等すべての会合参加者に対し、会合前及び会合期間中を通して、適正な空調、こまめな消灯、ごみの分別回収、マイカップ等の持参、公共交通機関の利用など環境配慮の取組への協力を呼びかけます。
- ・ また、会合開催における環境配慮の取組について紹介する資料（パネル等）を会場に掲示しPRを図ります。

7. その他会場における環境配慮の取組

神戸ポートピアホテルは、今回の環境大臣会合開催を契機に、神戸市が進める地域版環境マネジメントシステムであるKEMS（神戸環境マネジメントシステム）をホテルとしては初めて取得し、「株式会社神戸ポートピアホテル環境宣言」を締結するなど独自の取組を進めています。

8. カーボン・オフセットの実施

上記の取組により会合開催に伴う温室効果ガスの低減に努めるとともに、それでもなお排出される温室効果ガスについては、それに相当する削減対策等により埋め合わせる「カーボン・オフセット」を実施します。（詳細は別紙のとおり。）

カーボン・オフセット実施に係る詳細について

(1) 予想される温室効果ガス排出量（推計値）：

最終的な参加人数等により変動するものの、概ね600トン程度と見積っている。(精査中)

(2) 埋め合わせの方法（案）：

想定しうる様々な手法を組み合わせることで埋め合わせを行うことにより、今後のオフセット定着に向けた先例とすることを目指す。

①グリーン電力証書の購入

会場（神戸ポートピアホテル）の使用電力量に相当するグリーン電力証書を購入することにより、排出されるCO₂の一部を埋め合わせる。

②開催地域(兵庫県、神戸市)の取組による埋め合わせ

－新規に設置される地域温暖化防止施策の導入(風力・太陽光等の自然エネルギー施設整備導入など)

－会合期間中(5月24～26日)のノーカーデー実施のほか、地域における会合に関連した様々な取組による埋め合わせを検討。

③CDMクレジット等による埋め合わせ

上記①、②による埋め合わせを行った後、さらに相殺が必要な排出分について、CDMクレジットの購入等による埋め合わせを行う。

(3)カーボン・オフセットに係る情報の公開

削減対策の内容、排出量算定方法の詳細及び埋め合わせの方法等に関する情報は、環境省ウェブサイトへの掲載のほか、カーボン・オフセットフォーラム(J-COF)が実施する公開講座等の機会を活用し、公開する。